

平成30年度 教員用学校評価

- | | | | | |
|---|------|--|--------------------|------------------------|
| 1 | 教育目標 | 教育基本法及び学校教育法の主旨に則って高等普通教育を施し、併せて天理教の教義に基づく信条教育を行うことを目的とする。 | (1)信条教育を具体的な形で展開する | ①「祈り」のある教育を実践する |
| 2 | 校訓 | 神一条の精神 ひのきしんの態度 一手一つの和 | | ②「報恩感謝」を身につける教育を実践する |
| 3 | 教育方針 | | | ③「互いにたすけあい」ができる教育を実践する |
- (2)与えられた徳分の一層の伸長を図る
- ①「生徒の希望進路」の実現に全力を尽くす
 - ②「部活動および特別活動」の充実を図る

H30年度

	重点目標	No	目標達成の方策	評価	H30年度 取り組んできたことの成果と課題	具体的な方策 (2019年度学校評価における改善のための方策)
信条教育	祈りのある教育	1	厳肅な態度で参拝するよう指導の徹底を行うとともに、信条教育の意識を高める	A	教員が工夫して おつとめの大切さを伝え、おさづけの取り次ぎを積極的に行う。	学校参拝で教員が生徒の前でおつとめをして、その後おさづけを取り次いでいるが、これを継続する。
	報恩感謝を身につける	2	ひのきしんの活動に生徒と共に積極的に取り組む	A	生徒と共に ひのきしんをする機会をつくり、報恩感謝を身につける。	生徒と共にひのきしんに参加し、報恩感謝を共に育てる。口
	慎みと助け合いの精神を育てる	3	慎みとたすけあいの精神を意識して日常生活を送るよう指導する	A	感謝する事を意識して生徒に伝える。	あらゆる場で信仰の喜びを伝えていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	4	頭髮、服装など身なりを整えるように指導する	A	頭髮、服装指導について自主的に出来るよう継続的な指導を行う。	頭髮・服装指導について、自主的に出来るよう継続的な指導を行う。
		5	あいさつの励行、時間厳守をするように指導する	A	挨拶についてはよく出来るようになってきているので、引き続き様々な場面での挨拶や時間厳守について、積極的に取り組む。	挨拶についてはよく出来るようになってきているので、引き続き様々な場面での挨拶や時間厳守について、積極的に取り組む。
		6	校舎内外の美化と公共物を大切にできるように指導する	A	HR等においてひのきしんの大切さを伝え、掃除分担や清掃当番を徹底的に指導していく。	引き続き、HR・クラブ等においてひのきしんの大切さを伝え、掃除分担や清掃当番を指導していく。
		7	生徒に規範意識の向上を日常的に働きかけをする	B	日頃からマナー違反の例を伝え、自主的に守れるようにする。	日頃からマナー違反の事例を伝え、自主的に守れるようにする。
	指導の協力、連携を図る	8	教職員の意思統一と共通理解、共通行動をするように努力する	C	職員会議や学年会において、生徒指導に対する考え方、指導基準についての認識の統一を図る。	職員会議や学年会において、生徒指導に対する考え方や指導基準について、共通理解が図れるよう努めたい。
		9	保護者等へ学校の指導方針を理解していただくよう努力する	A	家庭訪問、電話連絡、印刷物の配付などにより、学校の指導方針を十分に理解してもらい、問題が起こったときに初期対応を迅速に行う。	印刷物の配付や電話連絡を行い、必要であれば家庭訪問に出向き、学校の指導方針や思いを理解してもらう。
いじめ問題への対応	10	いじめ問題の重大性をすべての教職員が認識し、未然防止、報告・連絡・相談を確実にを行い、組織的に取り組む。	A	授業、クラブ活動のみならず、休み時間など生徒の生活場面にできるだけアンテナを立て、状況を把握し、連携して対応するよう努める。生徒との面談が最も有効であると思われる。	冗談の延長上に起こりうるいじめも見逃さないよう心がけ、教職員・生徒共にいじめを「絶対に許さない」という姿勢を大切にしている。	
	11	いじめの形態や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、教職員間の共通理解を図る。	A	学年会等、機会あるごとに現状を報告し合い、情報の共有に努める。	学年・クラス・教科・部活動・寮・保護者など、生徒に関わる者同士の情報共有を大切にしながら、チームとして対応していく。	
進路指導	生徒の希望進路の実現	12	HR、進路ガイダンス等において進路情報を提供し、生徒の意識付けを図る	A	進路に関する情報提供の機会として有効な講演会やガイダンスは継続して行う。『進路のしおり』をより効果的に用いることができるよう工夫する。 新入生からはセンター試験が「大学入学共通テスト」に変わり、英語は4技能を測る大学が増え、一般選抜でも推薦やAO入試同様に調査書や志望理由書等が積極的に活用する傾向が強まる。また新2年生は浪人すると入試制度が大きく変わるため、競争倍率が高くなると予想される。それぞれHRやガイダンス・授業を通じて適切な対策を講じることが必要となる。(2類)	進路に関する情報提供の機会として有効な講演会やガイダンスは継続して行う。『進路のしおり』をより効果的に用いることができるよう工夫する。 3年生は、現行の大学入試センター試験を受験する最後の学年となるため、入試動向に注意する必要がある。また2年生が受験する「大学入学共通テスト」は、英語の民間試験が一部で入試に利用され、さらに英語の4技能を測る大学が増えると予測されている。一般選抜でも推薦やAO入試同様に調査書や志望理由書等が積極的に活用する傾向が強まるため、e-portfolioへの継続的な記録も必要となってくるだろう。受験産業から提供される情報をしっかり収集し、生徒に対してHRやガイダンス・授業を通じて適切な対策を講じていく。(2類)
	基礎学力の向上	13	生徒が予習、復習など毎日の家庭学習をするように指導を行う	C	進路指導に関する研修会の実施、類を超えた学習指導に関する教員間の情報交換、主体的な学習への取り組みを促すための教科指導における工夫、ICTを活用した学習の可能性について検討を行う。 勉学への取り組みが消極的な生徒については、学年の先生方でよく話し合い、協力して丁寧な声掛けと学習習慣をつけるための指導やその生徒に応じた課題の提供を行う。またその一方で高学力層の生徒については、学力に応じた課題を与えたり特設課外講習(河合塾グリーンコース)の積極的活用を勧めたりなどして、充分にその能力を伸ばせるよう指導する。(2類)	進路指導に関する研修会の実施、類を超えた学習指導に関する教員間の情報交換、主体的な学習への取り組みを促すための教科指導における工夫、ICTを活用した学習の可能性について検討を行う。学習習慣の確立のためにスケジュール帳の活用を指導するとともに課題提出の点検の仕方についても検討する。 勉学への取り組みが消極的な生徒については、学年の先生方でよく話し合い、協力して丁寧な声掛けと学習習慣をつけるための指導やその生徒に応じた課題の提供を行う。またその一方で高学力層の生徒については、学力に応じた課題を与えたり特設課外講習(河合塾グリーンコース)の積極的活用を勧めたりなどして、充分にその能力を伸ばせるよう指導する。また、数年前から希望生徒が受講している映像授業のプログラムは、難関大学に対応できる講座から、中学生レベルの基礎的な講座まで幅広い。それらも併用することでより学習効果を高める。(2類)
	授業内容、技術の向上	14	生徒の学力を最大限に高める授業内容、進度、教え方の工夫をする	B	課外講習についての年間指導の形と状況把握に関して一層の改善を図るように教科に依頼し、部会でも検討を継続して行なう。 同一教科の担当者間で全国模試や定期考査、課題テストの採点・分析結果について検討し、各学年における改善点を明確にし、授業内容や進め方を工夫する。(2類)	課外講習についての年間指導の形と状況把握に関して一層の改善を図るように教科に依頼し、部会でも検討を継続して行なう。 同一教科の担当者間で全国模試や定期考査、課題テストの採点・分析結果について共有し、各学年における改善点を明確にし、授業内容や進め方を工夫する。また、受験産業の担当者からデータの提供や校内研修の講師を依頼することで、教員も研鑽を重ねていく。(2類)
	生徒の意欲、関心の向上	15	生徒の疑問や質問を真摯に受け止め、授業にフィードバックするよう努力する	A	放課後等の自習や質問、長期休暇中の学習用に進路指導室を活用してもらえよう、工夫する。 進学研究会とも連携しながら、合宿勉強会、全国模試などを有効に活用することで生徒の学習意欲の向上を図りたい。夏休みや放課後に質問しやすい雰囲気づくりを工夫したい。	課外講習についての年間指導の形と状況把握に関して一層の改善を図るように教科に依頼し、部会でも検討を継続して行なう。 進学研究会とも連携しながら、合宿勉強会、全国模試などを有効に活用することで生徒の学習意欲の向上を図りたい。夏休みや放課後に質問しやすい雰囲気づくりを工夫したい。
人権教育	人権教育、研修の充実	16	人権HRの系統だった取り組みをする	A	学校・生徒の現状に合う教材作りを教員間で相談しながら系統だって行う。	他校との情報交換や校外の研修にも積極的に参加する中で、方向性を見いだしていく。
		17	講師を招いての研修を受講し、人権教育に関して研鑽を積む	A	人権教育HRや日々の生徒指導に活かせる研修内容となるよう講師や視聴覚教材を精選する。	研修内容や講師を精選し、人権教育HRや日々の生徒指導に活かせるような研修にする。
特別活動等	特別活動の充実を図る	18	生徒会活動、HR活動の活性化を行う	B	スタッフ募集、企画、運営などを計画的かつ組織的に取り組む必要がある。具体的には、校内美化、ひのきしん、挨拶運動などの活動を日常化させ、生徒会メンバーに様々な達成感を体験させたい。	挨拶運動を週1回(木曜日)、または学期ごとに期間を設けて実施する。生徒会通信の発行を通して広報活動を行い、参加意欲の醸成を図る。新入生歓迎クラブ発表会の保護者参加など、公開について今後検討していく。
	部活動の充実を図る	19	部活動を通して心身の成長を図るとともに、顕著な成績を修められるように努力する。	A	心技体の全ての成長を目標に、活動内容の充実を努める。	無理のない活動計画のもとで、効率の良い練習方法を模索し、成績を向上させる。
研修	教員の指導力の向上	20	研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる	A	研究授業事後研修に多くの教員が参加できるように工夫する。	当該教科だけでなく他教科の研究授業にも積極的に参加し、授業技術の向上に役立てる。
		21	計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る	B	各部、各委員会、学年で研修テーマの設定、議論が出来るよう工夫する。	各部会や学年で研修に関する年間計画を立て、テーマに沿った適切な講師派遣や目標への実践に努める。
学校運営	広報活動の推進	22	HP、新聞、学校説明会等で広報活動を積極的に行う	A	編集会議でお互いの意思の疎通を図る。クラブ・学祭との連絡を密にする。	HPの更新、新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝える。
	校務分掌の組織的な運営	23	校務が円滑に推進できるように、適切な役割分担、組織的な運営を行う	B	校務分掌の整理も含め、組織として機能するよう努める。	校務分掌の適切な割り振りに努め、各部署の責任者を中心として組織だって問題提起と活動をする。
	安全管理教育の推進	24	外来者の対応(受付等)は適切に行う	A	来校者について、事務室窓口で声をかけてから校内に入るように働きかける。	外来者の事務室窓口での受付と、外来者の訪問意図を各職員室でも告げてもらうように確認する。
		25	情報機器の安全教育、登下校時の安全教育を行う	C	携帯電話の所持禁止から、「正しい使い方」への移行を検討したい。生徒指導部に安全教育の係を設け、自転車のマナーの向上を含め、学校内外での規範意識の高揚に努める。	携帯電話については、本校の実状と社会の現状を見つめ、色々と意見を聞いて考えていきたい。
26	事故、事件、災害などの防災や危機対応に取り組む	C	生徒の意識をさらに高める具体的な訓練を計画する。	本校舎の耐震工事に伴い校舎が4校舎に分散するため、適切な避難経路の確認と避難訓練を実施する。		